
Hello.War.

春玖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Hello・War・

【Nコード】

N9528X

【作者名】

春玖

【あらすじ】

大人気MMORPG『Hello・Work』通称H・W・HWで幾度のレベルMAXを達成、転生を繰り返してきた「椎名彩」とその双子の妹「椎名 茅」。10000人と一部の人の運命を、とあるアップデートが全てを変えた。そして気がついたらH・Wの中へ？嘘！どうなってるの！？

プロローグ（前書き）

この作品はフィクションであり実在する組織、団体、人物等とは何ら関係はありません。

ですが、他作品に影響を受けている事は確かです。あしからず不快に思われる方はドンドン批判してください。かまいません。

ありのままを受け止めようと思いますので、出来るだけお手柔らかにお願いします。

作品を構成する物：主にロマンと、そしてロマン、偶にロマンが含まれていて、隠し味はロマンです。

プロローグ

とある日の深夜、私「椎名 彩」は妹と今人気のMMORPG『Hello・Work・』(以後H・W・)で5回目のLv・MAX(Lv・200)達成を成し遂げ、転生の段階に入っていた。

名前から簡単に想像できる通りH・W・には職業ジョブがあつて、転生する度に変更が可能だったりする。ロマン派な私はいつもネタやカッコいい職業を選んじゃうんだよね。でも後悔はしていない。それにLv・150以降は以前使用していた職業へ転職ジョブチェンジが出来るから職業は同じものでなければ何でもいい。何でもいいなら好きなものにしちやえ!つてのが私の考え。

そして、職業を大まかに分けると5個、正確に言えば20個もの数の職業がある。

戦士から派生される拳闘士、ブレイカー、恐戦士、素人。

剣士から派生されるナイト、守人、魔剣士、双剣士。

魔法使いから派生される黒魔法師、白魔法師、陣術師、召還師。

探検家から派生される冒険家、弓使い、穹使い、銃士。

盗賊から派生される悪党、忍者、海賊、処刑人。

ちなみに私が選んだ職業は

守人、陣術師、弓使い、穹使い、処刑人の5個だ。

そして職業はレベルアップクラスアップに乗じて上位職()へ昇進させることが

できる。

上位職になるにつれて使用可能なその職業専用の術技スキルも増えていき戦闘の幅が広まるため、初心者はまず上位職を目標にするのがメジャー。

専用術技は覚えてるけど、それ以外の職技については戦闘系や生産系、系の他にも多すぎるから把握しきれてない。

っていうより、把握しきってる人なんていないんじゃないかな……。

それどころか妹「椎名 茅」の知ってる共通スキルと合わせても、たぶん全部には届かない。茅もこれから5回目のLv・MAXに到達するけど火力主義なだから、必要な術技しか取ってないし知らないだろうし。昔からそういう子だもの。

そして一部の上位ユーザーのみが持つ個人術技。これは一人一人違うもので、ユーザーと運営の担当者がよく相談した上で反映されるものだ。取得条件は1回以上転生していること、他プレイヤーの迷惑になるような行為を行ってないこと、運営に協力的なこと。取得後に後者二つが遵守されていないと判断されると術技が剥奪されるので要注意が必要である。ちなみに私も茅も持つてる。私のは使い勝手悪いけどね……。遠距離攻撃限定術技だし。それと比べて使い勝手のいい茅の個人術技はズルいと思う。せめて私の術技の倍率上げて欲しい！！あつ、いや、ここだけの話ね。

茅とは職業が重ならないように相談しながらプレイしている為、茅の選んだ職業は全く違う職業だ。元々ロマン派と実力派であり被らなかつたのでお互い十分に満足してるから問題は全くない。それでいて前衛後衛、攻撃守備も考えながら選んで常にパーティプレイだからレベルの上がる速さは尋常ではない。それにあまり周りには言いたくないのだが、課金アイテムの経験値2倍アイテム等ほぼ常時使用してる。レベル上げの方法からして他から見ればおかしいのだろうが、それについては今後語るとして……。

まあかなりやり込んでる事に変わりはないし。この調子で職業コンプリートでも目指しちゃうかなー。

と、馬鹿みたいなことを考えていると、現在最後のレベル上げに必死になつてゐる妹の大声が隣の部屋から響いてきた。

「お姉ちゃん！レベル上がったよー！まだ転生してないよね！？」

予想より早い……誰かに手伝ってもらつたのかな？どちらにせよ早くて困る事なんてないんだけどね。

「うん、まだまだよ。転生の準備できたら言つてねー」

「大丈夫、もうできてる！ねー、早く転生しようよーお姉ちゃん」

全く……今までこつちが待つてたというのにこの妹は何を言つてる

のだろうか。言ってる意味がお姉ちゃんちょっと分からないです。誰か説明プリーズ！っていうのは冗談で。

「はいはい、わかったから。じゃ、5回目の転生張り切って行こー！」

「おおー！」

カチャ　ピンポンパンポーン！アカウント名【アーヤ】様、転生するとLv・1に戻りますがよろしいですか？　はい／いいえ

キーボードを叩く音が鳴ると同時に毎度少しだけイラッとする機械音が流れてきた。それと同時に選択肢が出る。ここは当然「はい」を選ぶ。っていうかここで「いいえ」を選ぶ人っていないよね？もしいるなら超絶サービスで一番火力のある術技をぶっ飛ばしてあげちゃう！やだ素敵！

はい／いいえ　　　　　カチャ　ピンポンパンポーン！転生しました！転生しました！Lv・1に戻りました！おめでとー！これで君も廃人の仲間入りだね！無職だね！非リア充だね！リア充なんて死んじまえクソヤロー！！

【カーヤ】Lv・1　職業：無職

ふう……。これで転生完了。今日はこれから超大型アップデートがあるらしいからログアウトした。もう夜遅いしね……。ハローワーク

には明日行こう。職業決めるのもそれからいいや。

そんなことを考えながら寝る準備をしてるとパジャマ姿の茅が部屋に入ってきた。

「お姉ちゃん。もうログアウトしたー？」

「今したとこ。茅ももう寝るの？」

「うん。アプデが終わる前に寝そうだよ。過去最大のアプデだし、朝までのお楽しみってことでいいかなと思って！」

「内容も公開されてなかったから相当変わるだろうね……あーカタストルの術技の倍率がったりしたら私泣くよ。絶対泣く。エフェクトの簡略化されても泣ける自信がある」

んーっと伸びをしてから完全に寝る態勢に入る。

「茅も明日が楽しみなら早く寝なさい。起きててもしょうがないよ？」

「わかってるって。おやすみー！」

ドアを勢いよく閉めて自室に戻る茅に深く嘆息をつき、アップデートの内容や次の職業のことを考えてるうちに意識が落ちた。

- - - - -
- - - - -
- - - - -

翌朝、起きて直ぐPCを立ち上げる。耳をすませると隣の部屋でドタバタと音が響いてる。たぶん同じタイミングで起きた茅が慌てて同じ行動を取ったのだろうと予想。立ち上げたらまずはランチャーを起動した。これ基本。覚えておきましょう。で、アップデートの内容はつと……。

「えっ？嘘……」

『アップデート内容』

・転生システムの廃止。尚、これまで取得した経験値はなくなりません。

・Lvの無制限化。上記の経験値は全て引き継がれます。

・個人術技の配布停止。

・新Map「ダマスカス」の実装。

・新Chapter「The Legend of Nine」の実装。

・新Questの複数の実装。

・新MOBの配置。

・既存MOBのLv修正。

・特定MOBの取得経験値修正。

・新装備の実装。

・新術技の実装。

更に一つ新しいシステムを実装しました。こちらはゲームを開始してからのお楽しみということでお願ひします。尚このシステムについては、転生されたことの無い方に抽選で10000名、過去に転生された方を対象に適応されます。このアップデート以降の新規ユーザーには適応されません。以上がアップデート内容です。これからも引き続き、よきHello・Work・生活を。

アップデート前に2名のユーザーが転生、その後職業を選択せず更新されました。この2名の転生は認めますが、新しい職業は選択できません。今後このようなことが無いようご注意ください。』

「新しい職業が選べない……だと……？」

つい言ってしまった。後悔はしていない。おっと、そんなくだらないことをしている場合じゃなかった。早くログインしないと……！私はH・W・を起動した。

さようなら、世界。無くならない戦争、私は貴方に失望した。こんにちは、世界。そして私は、戦争を起こす。

人を殺す戦争が起こる正しい世界。

人を殺さない戦争が起こる間違った世界。

目に見えない国と国の戦争の影響により不安定な世界よ。不安定な世界から私は逃げ出す。

目に見えた戦争で安定を求める歪んだ世界よ。逃げ出した先は歪んだ世界。

正しい世界に間違った世界。共通点は平和が無いこと。

私は平和を求める。だから私は戦争を起こす。

平和への近道、それは

戦え。戦って勝て。

H・W.を起動したとき、私は意識を失った。意識を失う前に微かだが、何かが聞こえた気がした。

プロローグ（後書き）

椎名 彩 しいな あや

アカウント名【アーヤ】

プレイスタイル

好きな戦法：ド派手なエフェクトの遠距離攻撃で色々壊したりする
要塞攻略戦、ボス級戦

好きな言葉：粉碎

椎名 茅 しいな かや

アカウント名【カーヤ】

好きな戦法：超火力の近距離攻撃で多くの相手MOBを蹂躪する殲
滅戦、ボス級戦

好きな言葉：玉砕

ちなみにボス級戦は姉妹のパーティーでのみ戦う。
他のユーザーは邪魔なのだとか。

チュートリアル（前書き）

この作品はフィクションであり実在する組織、団体、人物等とは何ら関係はありません。

ですが、他作品に影響を受けている事は確かです。あしからず不快に思われる方はドンドン批判してください。かまいません。

ありのままを受け止めようと思いますので、出来るだけお手柔らかにお願いします。

作品を構成する物：主にロマンと、そしてロマン、偶にロマンが含まれていて、隠し味はロマンです。

チュートリアル

気がついたら何度か見たことがある無機質な空間だった。見たことがあるとは言っても画面の向こうの話であってリアルの話ではない。

ここはチュートリアルステージだ。それは分かる。けど、なんで私がかここにいるのかが分からない。H・Wの中に入ったと考えるのが普通だけど頭のどこかで、ありえないと叫んでいる私がいる。

いつの間にか目の前に天使のような人が立っている。確かチュートリアル of 進行役をしてくれた人だったような気がする。そんなことは関係無い。もし仮にH・Wの世界のチュートリアルだとしたらスキップ機能があるはず。どこだよスキップ機能、と考えていると丁度いい場所にSkipと表示されたボードのようなものが浮いていた。

コマンド……だよな。押せばいいのかな……？

押そうとしたとき、勝手に天使が喋りだした。

「Hello・Work・へようこそ。アーヤ様。ウリエルと申します。ここでは主に非戦闘時の操作方法の説明、戦闘方法の説明と実戦、戦争の説明と実戦、チュートリアルの修了条件となるボス級戦を受けていただきます。スキップしても構いませんが、最低限の戦闘は行っていたいただきますので、ご了承ください。」

そこまで聞いた私は迷わずSkipを押した。押して思った。

あ、いっけね。どうやって術技使用したりするんだろ。

「スキップを受諾しました。これより擬似戦争を行います。」

無機質な空間が高原に塗り替えられていく。そこにはかなりの兵士のような数をした人々がいた。

戦争が始まりました。

フィールド：高原

味方国：優勢

敵国：劣勢

勝利条件

敵国のMOB【指揮官Lv・5】を1体、戦闘不能にする。

敗北条件

味方ユーザー全員の戦闘不能

ちょっと待つて。何、どうすればいいの！何でチュートリアル飛ばしたのよ私！私の馬鹿！

あたふたしてる間にM O Bが攻撃してきた。攻撃といっても現実はその可愛いものじゃなくて、敵兵が本気で殺そうとしてきてる。私みたいな普通の女の子が怖がらないはずがない。あ、斬られた。死ぬ。

【アーヤ】

L V ・ 2 5 7

職業：剣士

H P 1 4 0 3 7 / 1 4 0 3 8

M P 1 1 2 3 / 1 1 2 3

驚くアーヤに何度も必死に攻撃してくる兵士。驚きすぎて斬られる当人の意識はもう勝手に表示されたステータス画面にしか向いていない。職業に剣士が選ばれるのはいつのもことだ。それはいいけどL VとH Pがおかしい、おかしすぎる。

そっか。上限がなくなっただけ。L V ・ 1 5 0 超えてるってことは転職出来るのかな……？ 転職！ 転職！ 転職！ 転職！ 転職！……！

何も起こらない現状に何度も心の中で叫ぶアーヤ。ぜえぜえと息を切らせながら必死に上から下からと攻撃し続ける兵士。そしてなかなか減らないH P。

そういえばと思い出したアーヤは今度は自分からステータス画面を出そうと、心の中で *Status* と呟く。

【アーヤ】

Lv : 257

職業 : 剣士

HP	14029 / 14040
MP	1123 / 1123

浮かび出たステータス画面の剣士と表示された部分に触れると画面が切り替わった

転職

職業一覧

【イージス】	戦士より派生	守人最上位職
【ドラグノフ】	探検家より派生	弓使い最上位職
【カタストル】	探検家より派生	穹使い最上位職
【エリアマスター】	魔法使いより派生	陣術士最上位職
【正義の味方】	盗賊より派生	処刑人最上位職

迷わず【カタストル】を選択する。すると幾何学的な模様の陣が頭

上に現れ、足元まで降りてきたと同時に私の装備が変わる。

「へえーここまで同じなんだ。なら装備は……」

Item、と心の中で唱えるとアイテムインベントリが表示される。その中にある装備の一つである【EGR - 5500】に触れるとまた陣が現れ、【EGR - 5500】だと思われる2m程の巨大な砲台が出てきた。

「わあ凄い！本物のEGR - 5500だ！！やだ何これ素敵……わあ……本物だあ……」

攻撃してくる兵士を無視し、よいしょと【EGR - 5500】を敵兵であるMOBのいる方向へ構えた。意外と軽かった。術技を発動させようとしたがここで少し迷った。スキル画面から術技を選ぶこともできるけど、それでは駄目だ。つまらない。

職業によっては連続で術技を使って攻撃する職業だつてある。そんな職業の為に術技の使用に関してはあるシステムが適応されている。音声だ。PCに外部接続でマイクを繋げるリアルで術技を口に出すと術技が発動できる。

ここにはマイクは無いけど……音声認識で術技が発動できない道理は無い！！

「アトミック、メガランチャー!!」
術技「アトミックメガランチャー」発動します。

爆音、轟音、なんと表現すればいいか分からない程の音と、衝撃による地震。凄まじいエネルギーの奔流。

後に残ったのは、【EGR-5500】を前に構えるアーヤの姿と、後ろからただひたすらアーヤを攻撃する一人の兵士だけだった。

勝利条件を達成しました。
戦争が終わります。

- - - - -
- - - - -
- - - - -

そしてまた無機質な空間。さっきの戦闘で大満足した私は今、たぶん無意識に顔が笑顔になってると思う。いけない、抑えなきゃ……!

「お疲れさまです。次はボス級戦となりますが、このまま戦闘に移行してもよろしいでしょうか？」

はい／いいえ

笑顔になるのを必死に堪えながら、はいを押す。するとまた高原に変わり、さっきとは違って今度は大きなゴーレムがいた。茶色だらたぶんこのゴーレムは……

【クレイジャイアントゴーレム】Lv.8 ボス

ステータスがゴーレムの頭上に表示されてる。戦闘といっても確かこのゴーレムは動かないはず。むしろ動いたら初心者で本当にチュートリアルを受けてるユーザーは絶対に負けてしまう。Lvの問題じゃなくて、ボス相手に一人で挑むのは無謀に近い。自分のLvよりも圧倒的にLvが低いなら話は別だろうけど。あと例外と。

動かない敵に本気で攻撃してもつまらないし、と思い引き金を引く。すると普通の銃では考えられないような銃声で弾丸が発射されゴーレムを穿ち、一撃で沈めた。無意識で引き金を引いたけど、出てきたのは通常攻撃。一発一発は高火力だが、連射ができないのが難点。

「クレイジャイアントゴーレムを倒されましたね。お疲れ様です。以上でチュートリアルを修了とさせていただきます。ではこれから退場していただきますが、そのまえに所属国を選んでください。退場した後、そちらの国からのスタートとなります。」

北の国【パール】
東の国【モルティエ】
南の国【ベネルクス】
西の国【ジジミネア】

前に茅と相談したとき、次はベネルクスを選択することになって
ただ、これで大丈夫なんだろうか？

と思いつつも、他を選んでも仕方がない為【ベネルクス】を選択
した。

「ベネルクスですね？受諾しました。それでは、よきHello・
Work・生活を送れますようお祈りします。いつてらっしゃいま
せ。」

足元に陣が出現し、私は陣から溢れ出た光に包まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9528x/>

Hello.War.

2011年10月29日14時07分発行